

# 重 富 散 歩

重富校区には、多くの歴史的価値の高い文化財や史跡が点在しています。  
今回はその幾つかをご紹介しますのでご一読ください。 (始良市観光ボランティアガイド会所属)  
重富校区コミュニティ協議会 副会長 高野俊明

## ◎重富という地名

鹿児島県内で縁起の良い地名として「重富(富が重なる)」と「喜入(喜びが入る)」が挙げられます。  
しかし、この二つの地名には「喜入」が島津氏下向以前から居た豪族の名であるのと違って、「重富」は1737年再興された重富島津家のかつての領地であった越前(石川県)の地名に由来するものです。

現在の重富のある始良市は県本土内で唯一人口増加が見られる活力ある街として発展しています。  
また、私たちの住む街「重富」は、霧島錦江湾国立公園の一翼として景色も素晴らしく、生活も便利で大変住みよい自慢できる地域です。



重富海水浴場と桜島

## ◎白金酒造の酒蔵



明治2年創業の白金酒造は長い歴史を刻む重富の象徴です。  
この白金酒造の酒蔵はそのころ建築されたもので重富小学校の門柱と並んで「国の有形文化財」に指定されています。  
文化財というと遺跡と思われがちですが、れっきとした現役、今も立派に活躍しています。あの西郷さんも何度も訪れたとか。

## ◎歴史国道白銀坂

明治6年、重富までの海岸道(国道10号線)が開通するまでは、唯一鹿児島城下に通ずる街道として利用されていました。あの「伊能忠敬」や様々な歴史上の人々が通り、商人庶民が日常的に使っていた約3キロ半の歴史国道です。

白銀坂の傍らには高さ20メートル、幅2メートルと小ぶりながら女性的で上品な「布引の滝」もあります。



白銀坂登り口



布引の滝

## ◎平松城跡(重富小学校)

「岩劔城の戦い」(1554年)に勝利した島津義弘が蒲生氏の龍ヶ城が落ちるまでの3年間在番した時の麓の居館としたのが平松城の始まりといわれています。現在の野面積みの手法で作られた石垣や重富館を中心とした重富麓の原型は、後に再興された重富島津家以降のもので、重富小学校の門柱は、かつての県庁が鹿児島市の中央公園にあった時のもので、国の有形文化財になっています。



平松城跡(野面積みの石垣)



重富小学校正門

## ◎越前(重富)島津家墓所と招隆寺

越前(重富)島津家が 1737 年に再興されて以降、歴代の方々の 30 余のお墓があります。

その入口左側には、西南の役に重富村から出征し戦死した方々の名前を刻んだ「招魂石」があります。「招魂石」の文字は中国の大政治家・「王陽明」の書から集字拡大したものです。

この「招魂石」のお向かいには、反私学校派の悲劇を伝える墓もあります。

招隆寺は越前島津家の菩提寺であった大本山永平寺の鹿児島出張所でもあります。毎週定期的に座禅会も開かれています。

また、招隆寺墓地には、珍しい「とっくり墓」があります。焼酎の好きだった故人に来世でも好きなだけ飲んでくださいという遺族のそのやさしい心遣いにほっこりします。



越前重富島津家墓



招魂石



招隆寺



とっくり墓

## ◎名馬「池月」の墓



重富地区公民館の前庭には、源義経と木曾義仲との戦いのひとつ、「宇治川の先陣」で佐々木高綱が騎乗した名馬「池月」の墓があります。

源頼朝に見いだされ長い間源氏のために働き、後に年老いた池月に老後を故郷の指宿で過ごさせようと送り返される旅の途中、重富の地で力果てて死んだので、土地の人々が大いに憐れんでここに埋葬したそうです。

## ◎思川とおべんさん

思川は、我が国で初めて日本地図を造った「伊能忠敬」の記録には「渡瀬川」と書かれています。幕末に罪を得て思川のほとりで殺された愛娘「おべんさん」を嘆き悲しみ毎日のように思川の岸部で嘆き悲しんでいた父親の姿が皆の涙を誘い、いつしか人々が「思川」と呼ぶようになったと伝えられています。

「おべんさん」のお墓は城瀬にあり、子孫によって今も花が手向けられています。



思川(新開橋付近)



おべんさんの墓

さて、今回は私たちの住む重富の一部を紹介いたしましたがいかがでしたか。まだまだ重富には他にもさまざまな見所があります。やがて春、さあ、皆様も仲間を誘ってわが街「重富」を歩いてみましょう。また、新しい発見があります。新しい出会いがあります。